

## 事務局通信 Vol.64

「**こ**」承知の通り、過日の台風 19 号は関東、甲信、東北の各地域に甚大な被害を与えました。一部報道によれば

死者、行方不明者は合わせて 90 人を超え、負傷者を合わせると 500 人近くにのぼる被害となりました。亡くなられた方々やご遺族の方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

今回の災害は各地に及びましたが、最も被害が大きかったのは福島県の阿武隈川流域で、度重なる災害から 3 年間かけて改修されたにも関わらず、決壊という想定を越えた被害となりました。千葉県では竜巻のような突風により亡くなられた方もありました。群馬や神奈川等、多数の被害が全地域的に起こり、台風被害でははじめての特定非常災害となりました。災害救助法適用自治体は東日本大震災をこえて過去最大の適用となったとのこと。今回の災害では、台風が本格化する以前から降水量も多く、川の水位が上がっていました。八王子市でも南浅川が高尾地域で氾濫し、床上浸水の被害が出ました。今にも越

水しそうな浅川橋のライブ映像がニュース番組でも流れていたのは衝撃的でした。被災として今現在把握されているところでは高尾青年寮(グループホーム)が床上浸水の被害にあいました。被害にあった場所での生活は難しく、入居者の方たちがとりあえずの住居を確保できたのはつい最近の話だと聞いています。**八障連としても八王子ワークセンターと共同して義援金募集の支援を行う予定ですので、ご協力をお願いできればと思います。**

話が変わりますが、市との懇談会を 12 月に行う予定で調整しています。そこでは今回の台風 19 号などの災害についてをテーマとし、災害への備えをどのようにしていけばよいか、振り返るような機会を考えています。八王子市でもし、千葉県のような大規模で継続的な停電が起きたら…、もし大規模な決壊など広範囲にわたる水害があったら…。今後も起きる可能性がある水害などについて、今回の経験を教訓にできるような意見交換を行いたいと考えています。また別のテーマとして、知的障害者の方々の親なき後について、親の立場からの意見を伺う機会も考えています。重度行動障害など重度の障害がある方がたが地域で暮らし続けるために何が必要なのか、国も地域も模索しているところです。これらのテーマを基軸に、市側からの情報提供なども含めて今後についてを共有できる意見交換ができればと思います。また、今回の通信に、新たに選出された八王子市市議会議員を対象に行ったアンケート調査の結果を同封します。今回は 3 件の返信がありました。年明けに市議会議員の皆様との懇談会も企画予定です。幅広く、障害者の地域での現状について共有したいと思いますので、ご意見、ご参加をお願いしたいと思います。(事務局:有賀)



台風 19 号の被害画像まとめ  
(<https://8mato.jp/user/nokao/f6f56edddd8d320a665>)より転載させていただきます。

台風 19 号で増水した南浅川(御陵橋から高尾山方面)の状況。

## 編集部より

八障連通信 352 号をお届けいたします。今号では、砂長美んさんより「秋のお便り」が届いていますので、特集記事とさせていただきます。年明けにはイギリスなどヨーロッパ訪問の旅に出ること。ヨーロッパ訪問記もぜひ通信に寄稿していただければ特集記事として掲載します。よろしくお願いたします。/さて、早くも 11 月を迎え、2019 年度の八障連活動も追い込みに入っており、12 月には、恒例の「市障害福祉課との懇談会」を予定しています。ぜひ多くの会員の参加をお願いいたします。(編集子 Y)



## お知らせ掲示板



**私** はいわゆる「頑張る障害者像」を、本人以外の誰かが美化したり卑下したりして語るというのが、どうしても好きになれません。スポーツに打ち込む。音楽に夢中になる。絵画で絶賛される…世の中には様々な障害者像があって良いし、努力したもの、形に現れたものについては、正しく認められるべきです。しかし…「他人の賞賛を集めやすい」「感動を呼びやすい」というような種類の努力だけが、もてはやされていいものなのでしょうか。

これは、私がまだ 19 か 20 くらいの小僧だった頃の話です。…画用紙と鉛筆を与えると、喜んで何時間でも没頭しているという知的障害のお子さんの話を聞きました。

「でもねえ…画用紙に描いているのが、ただの大きな丸ばかりでね。どんな意味があるんだか…」と指導員の先生。この頃は私も…まだ若かったんだと思います。その先生の口調がどこか、知的障害の人を小馬鹿にしていたように聞こえました。まあ実際、今思い出しても、差別的な口調だったよなあ、と思うんですが…四十路の今なら堪えが効く場面でも、怒りが抑えられませんでした。

「それが…どうしたんですか？」自分の喉から出た声は、呻くような低い響きだったと記憶しています。「えっ？」指導員の先生にも…私が怒っているのは伝わったみたいですが…なぜ怒ったのか分からない様でした。

「丸ばかり描いているのが、なぜいけないんですか？」

「だってそんなもん、意味ないし、役に立たないでしょ。丸だけ書いたって、字もかけなきや文章も読めない」と先生。さも当然という口調は変わりません。それが余計にイライラしました。

「それは、あなたから見た見え方でしょう。ずっとたくさんの丸を紙に描き続けているってことは…その子にとっては、一つとして同じ丸はない。または、丸しか描けない自分を変えたくて、丸以外の何かを描こうとしているかもしれない」

私がこんなふう述べてと…、「そんなこと分かるわけがないじゃないか！丸を描く以外、何もしようと思わないんだから！」先生もキレたみたいでした。私のような若輩に何が分かるか、ということでしょう。年長者からすれば、これも当然の怒りです。

「なぜ丸を描いているのか…その子に聞いてみたことはありますか？」と再度、私も質問しました。

「ないな…意味のある言葉なんか話せないから」やっぱり…バカなことを聞くな、という先生の態度は変わりません。

「わからないなら…決めつけないでください」私がそう言うと、先生は黙り込んでしまいました。

「その子は…丸を描くってことを、一生懸命頑張っています。他人にわかって貰えなくても関係ない。丸を書く意味なんか、僕にもわからないけど、分からないからと言って、バカにするのはかわいそうです」

知的障害の人がかわいそう、というのはあくまでも若い頃の私のつたない語彙から出た言葉です。四十を過ぎた今であれば、知的障害の人たちのしていることを低く見積もる考え方そのものが、根本的におかしい、と、もっとはっきり言えたと思います。

「バカにはしてないよ。しかし、丸が描けたって、意味なんかないだろう」

知的障害の子どもを軽く見ないで欲しい。という私の言葉は、最後まで通じませんでした。運動で頑張る。勉強で頑張る。その努力と成果は立派なものです。しかし「他人から見てわかりやすい結果」を出した人だけが褒められる。これでいいのか…と私は思うのです。何に夢中になるかは人それぞれ。頑張り方も人それぞれ。物事に打ち込む本人の気持ちを推し量ることもせず、外に現れるわかりやすい面だけを見る。こんなに失礼なことはありません。

たとえ知的障害でなくても、「今お前が夢中になっていることに、たいした意味なんか無いんだよ」なんて言われたら、誰だっていい気分にはならないはず。だから私は、他の人に頑張れとは言いたくないんです。どんな生き方をしているにせよ、この世に生きている以上、みんなが既に、「今日一日を無事に生きる」ということを頑張っている訳だし、見ているだけで関わろうとしないような他人が、それを見て、「まだ出来る。もっと頑張れ！」とか…さらに努力を煽るようなことも、なるべく、してはならんと思っているからです。





連載コラム

## B型肝炎闘病記

パオ 小濱 義久

## 闘病史 その36

1 996年5月に肝臓癌の再発が疑われたが、肝生検の結果、エコーで見られた腫瘤影は良性のものとなり、無罪放免となった。その後も3ヶ月に1度の虎の門病院の外来受診と週4~6日の八王子中央診療所(以下八中診)での強力ミノファゲンの注射を続けていた。1996年、1998年に子供たちが小学校へ入学するという家庭事情も抱え、少しでも生き延びなければという強い想いが日々の注射に向かわせていたが、それはそれで結構大変だった。注射自体は嫌いではなく、血管も丈夫だったので、何の困難もなかったのだが、診療所に通う道中で様々なアクシデントに見舞われた。

時間にゆとりのある時は良いのだが、ギリギリを攻める時は怖い。八中診の診療時間に間に合うようにと急ぐあまりのバイクと車の出会い頭事故、一時停止違反。ひたむきな努力が生み出した副作用とも言える。結構おつちよこちよいのところがあり、それも影響しているようだ。

2001年には、車上荒らしにも遭っている。何月だったか、中央診療所の駐車場が一杯だったので、20号線沿いに車を止め、急いで終了間際だった診療所に飛び込んだ。車に戻って来たところ、後ろの席に置いていたアタッシュケースがなくなっていた。たまたまその日はお金を下ろす為に郵便貯金通帳が入れてあった。急いで大和田の郵便局に盗難届を出しに行ったところ、次の日の朝一番にATMに通帳を指し込んだ男がいた。ATMの反応がおかしいので、直ぐ逃げたようだ。局員が玄関に出た時にはもう姿はなかったと言う。後日、防犯カメラに映った男の映像を見せられ、思い当たる人がいませんかと訊かれたが、全く心当たりはなかった。後部座席の窓が少し開いたままになっていた。ほんの10分程度の時間だったが、人通りもある中での見事な早業である。

先月、原稿を書こうとして、1995年から2003年までの手帳を繰りながら、出来事を書き出していたのだが、2001年の手帳がなくて、何日も探し回った。1年分の欠落がとても気になって、なかなか文章を書く作業に向かえず、落ち着かない日々を過ごした。結果的に編集子の山田さんから休載しても通信の方は大丈夫ですと言って貰え、殆ど書けないまま諦めた。肝臓にまつわる全データなどの記録は整理してあり、2001年は肝臓的には何も問題はない事が分かったので、2001年は端折って書こうと、今月になって原稿に向かい書き始めた処、突然車上荒らしの出来事が脳裏に飛び出してきた。手帳もアタッシュケースの中に入っていたのである。何処を探しても出て来ない訳だ。

2001年は、アメリカ同時多発事件があり、世界貿易センタービルが崩壊、沢山の死者を出した衝撃的な年であった。テロ撲滅を掲げアメリカ軍がタリバーン政権に対し戦争を始め、それがイラク戦争に繋がり、イスラム過激派組織を生み出し、今日のシリアの惨憺たる状況を招いた遠因にもなっている。インド西部地震で2万人の人が亡くなったり、国内では池田小事件があり、歌舞伎町雑居ビル火災があったり、何とも殺伐とした年だった。イチローがメジャーデビューし、キューちゃん(高橋尚子)が女子マラソンで世界最速記録を出したという明るいニュースも少しはあった。だが私の個人史は失われたまま。今回は肝臓の事は殆ど書けなかった。それではイカンゾー?ハイスイのジンだぜ!



2001年はいろんなことがあったよなあ